

Working mother

ワーキングマザー



家族と農園が ともに成長できる 生活を目指して

金光 史さん (34歳)

- 家族: 夫、長男(小1)、長女(3歳)
- 子どもの預け先: 児童クラブ、保育園
- 職業: 農業+農園の販売企画担当
- 職場: 輝らり農園(西条市)
- 勤務時間: 8:00~17:00(日休み)
- 勤続: 1年6カ月

タイムスケジュール

- 03:00 起床 自分時間(読書、子どもの身の回りのこと、事務仕事など)
- 06:00 朝食準備
- 06:30 家族起床
- 07:00 夫出勤、長男登校(7:15)
- 08:00 長女を保育園へ送ってそのまま出勤
- 12:00 昼食(自宅へ戻って)
- 17:00 児童クラブ、保育園のお迎え
- 18:00 帰宅 夕食作り
- 19:00 夕食 団らん(遊びや絵本を読む)
- 20:00 入浴(子どもと入浴してない方が夕食の片づけ担当)
- 21:00 就寝



生涯の仕事としての農業

私は、岡山県倉敷市で会員の家庭に育ちました。幼いころから両親が、山や海によく連れ出してくれ、自然に親しむ環境だったことから、将来は、自然と関わる仕事がしたいと思うようになりました。進学先の鳥取大学農学部で勉強したことは、私に自然や農業に対する興味をさらに深めてくれました。卒業後は農協に就職し、果樹指導員として働きながら、夏の週末は、大学の授業がきっかけで夢中になった、スキューバダイビングスクールで見習いスタッフをしていました。その頃、仕事として農業の道か、ダイビングインストラクターの道か心底迷いました。悩んだ末「人が生きるために必ず必要な食料を作り、命をつないでいく」ことを生涯の仕事としようと、一旦鳥取を離れた後、女性の果樹指導員の募集をしていた愛媛の農業関連の組合に転職しました。

果樹指導員から生産者へ

同じ職場で、やはり果樹指導員として働く夫と出会い結婚、産休育休を2回取得しました。妊娠中、復帰後は内勤や短時間勤務など、会社側の柔軟な対応に本当に助けられました。その間に、夫は、自分の思い描く農業を実現するために退職、果樹の生産者になりました。もともと、農家出身ではない私たちは、農地や機械などゼロからのスタートであったため、生産が軌道に乗るまでは私が仕事を続けようと思い、フルタイム勤務に戻しました。夫が自営を始めてから、イキイキと自分の目標に向かって頑張る姿に、私もずいぶん励まされました。その後、果物の生産量も増え、独自販売をするようになったのを機に、私も思い切って退職し、夫婦で生産者になりました。幸いにも、内勤業務で経理や販売の仕事に携われたことが、現在、農園の経営に活かされています。

自分と子どもの成長感じる毎日

農業一本になってからは、時間に融通が利くようになり、食事作りや、子どもたちのお迎えなど、都合をつけやすくなりました。夫も、会社員時代と比べ、子どもたちと過ごす時間が格段に増えました。私たち夫婦は、仕事も生活も、苦手なところを補い合って暮らしています。子どもたちも休みの日は一緒に畑に行き、虫を見つけたり、お弁当食べたりと、自然が暮らしの身近にあります。その体験が、将来の職業選択につながってくれたらいいなと夫いつも話しています。私の夢は、家族と農園が一緒に成長していくことです。農業は、仕事も生活も家族といつも一緒です。また、納得のいくものを作って、お客様に届けるために探求心も磨かれます。私は、この職業をやりがいをもって生涯続けていきたいと思っています。

NPO法人ワークライフ・コラボの

シゴト×ライフスタイル

★ポイントはここ★

“人生100年時代”と言われるようになり、できるだけ長く、または生涯働ける職業選択を意識する人も多いのではないのでしょうか。しかし、女性は、自身や家族のライフイベントに柔軟に対応せざるを得ないことがあり、選択肢が限られる場合があります。その備えの一つとして、仕事や生活のスキルを伸ばし、アンテナを張って情報を得るなど、長く働く環境整備を大切にしたいですね。

今回の取材担当

高橋 浩子

高齢の母が骨折し、介護を担う生活が始まりました。周囲の協力を得ながら仕事と生活を両立しています。娘2人と夫の4人家族。



イベント・各種情報アップしています!

【FB】▶ <http://www.facebook.com/worcolla>

【HP】▶ 「ワークライフ・コラボ」で検索